



からしだね

キリストの受難 カトリック池田教会

2015年
12月号 (511号)

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父
協力司祭：デニス・マックゴワン神父
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



ひもさし

カトリック紐差教会(長崎県平戸市) 教会の紹介文は7ページ

巻頭言	2	ウオード神父様から	3
カトリック紐差教会	3	樹木の剪定	4
12月のガラスケースの言葉	4	日曜学校 秋の遠足	5
宝塚黙想の家から	6	クリスマスチャリティコンサート	10

表紙写真 撮影:神崎 茂

※聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です

完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

宝塚黙想の家

松本一宏神父

先日、幼稚園の子どもたちは遠足で売布の黙想の家へと行きました。まだ紅葉はうっすらという感じでしたが、十字架の道行きを歩いたり、どんぐりを拾ったり、大きな松の葉をたくさん集めて箒のようなものを作る子もいました。中でも一番楽しんでいたのは、聖堂前の坂になっている芝生のところだったようです。横に寝転んでぐるぐる回りながら転げ落ちて大騒ぎしていました。（黙想の家のスタッフに知られたら叱られるので内緒にしておいてください。）黙想の家は、御受難会が日本での活動を始めた最初の頃から、司牧の中心として存在してきました。古い日本家屋をそのまま使った建物は、独特の雰囲気を持っています。宿泊棟や会議室など、後から増築された部分もありますが、ひっそりとした雰囲気をそのままに、今も静かに厳かに存在しています。

昔の写真を見るとほんとうにたくさんのグループが来ていたことが分かります。小教区の壮年会や婦人会、カトリック学校の生徒たち、いろいろな修道会・宣教会のシスター方や神父さま方、米軍関係の人々……。老若男女問わず、国籍も問わず、それぞれの霊的刷新のため、識別のため、神さまと出会い自分自身を見つめるためにここに集まっていました。現在も、規模は小さくなっているかもしれませんが同じようなグループに利用されています。そしてより広いキリスト教会に属する人々にも使われていますし、信仰を持たない人々の善い目的のためにも用いられています。

私も小さいころに黙想の家と出会ってから、ずいぶんとお世話になってきました。小学生のときにはイエズス村という子供向けの夏の黙想会がありました。聖書を読んだりしたのでしょうがその記憶はあまりなく、テニスをしたり（当時はまだ駐車場がテニスコートとして機能していました）、肝試しをしたことを覚えています。小さい私には真っ暗で物音一つしない黙想の家には絶対に“何か”がいると感じさせられました。青年になってから参加した集いも印象的でした。創立者の生誕を記念した集まりだったと思いますが、様々な地域からの参加者と広々とした芝生の庭で体を動かしたり、聖書のみことばを分かち合ったりして過ごしました。これは召命にとって大きな体験となりました。

そして今、黙想の家の住人として神さまと出会う時間と場所を求めてやってくる人々をお迎えする側になっています。このような未来を考えませんでした。自分自身がいただいた恵みを思うとき、この場所をしっかりと守り続けることの大切さを感じます。ここ数年、多くの方々の助けをかりながら細部の修繕や改修を進めてきました。古くなってきた建物はあちこちにガタがきています。保っていくのは簡単ではありませんが、たくさんの人が神さまを感じ、祈ったこの場所を大切にしたいと考えています。二つの小教区、幼稚園に近く、隣には女子御受難会もあります。これからも売布が御受難会の司牧の中心であり続けるために、屋根の大きな修理を計画しています。古くなった瓦を取り換えていきます。あと100年…少なくとも50年続けられるようにとの思いからです。日ごろから助けてくださっている皆さんにさらにお願ひすることになりますが、多くの方の助けを必要としています。たくさんの人が神さまとの交わりを深められる祈りの家を守り、御受難会の大切な司牧を続けていくことができるようにどうぞご支援をお願いいたします。

ウォード神父様から

売布の建物は、黙想の家として用いられてから60年あまりになります。黙想の家は御受難会の司牧の中心的な役割を担ってきました。そして、さまざまな世代の人々、いろいろな信仰を持つ人々の霊的な刷新のためにも役立ってきたと思います。その建物がいま、屋根の修理を必要としています。奉仕を続けるために、皆さまのご支援をお願いいたします。

ウォード・ビドル神父

カトリック紐差教会

住所:長崎県平戸市紐差町1039

カトリック紐差教会は、昭和4(1929)年、紐差の町を一望する高台に、教会堂設計で著名な鉄川与助によって建てられました。

鉄筋コンクリート造りで、梁間48尺(約14.5m)に桁行144尺(約43.6m)と規模が大きく、礼拝空間が2階に設けられているのが特徴です。

天井や壁面につけられた花や葉の彫り物が、ステンドグラスとともに堂内を華やかに演出しています。



現在の教会堂が建つ以前にあった旧紐差教会(明治中期建造)は、紐差教会の布教範囲であった馬渡島(佐賀県東松浦郡鎮西町)に、昭和3(1928)年に移築され馬渡島教会として現存しています。

待降節を前に樹木の剪定はシニア力で

待降節を前にして教会樹木の剪定が11月10日（火）に総務委員会の呼び掛けで行われました。池田市シルバーセンターの3人の職人がアラガシ、クスノキ、モチノキ、イヌマキ、モミ、カイツカイブキの垣根などの剪定を行い、信徒（男性12名と女性5名）は低木のモクセイ、ナンテン、ツバキ、の剪定と剪定された枝葉の袋詰めをして聖堂、カール記念館、司祭館の周囲が清楚になりました。幸い、天候に恵まれたが9時より早く始まったのに終了時刻は15時であり、5人の女性信徒が用意した昼食（さんまのかば焼き丼煮卵ぞえ、白和え、具だくさんの味噌汁、おなます風即席漬け）とデザート自家製みかんが主力のシニアの体力を保ちました。

下の写真には参加した一部の方だけの真横や後ろ姿しか映っていませんが、次回からは全員の集合写真を昼食休憩前に撮ることになりました。年齢を重ねても元気な姿を来年も見せることを誓われましたので、乞うご期待！（本当？）

写真左下は大山利郎さんから提供。



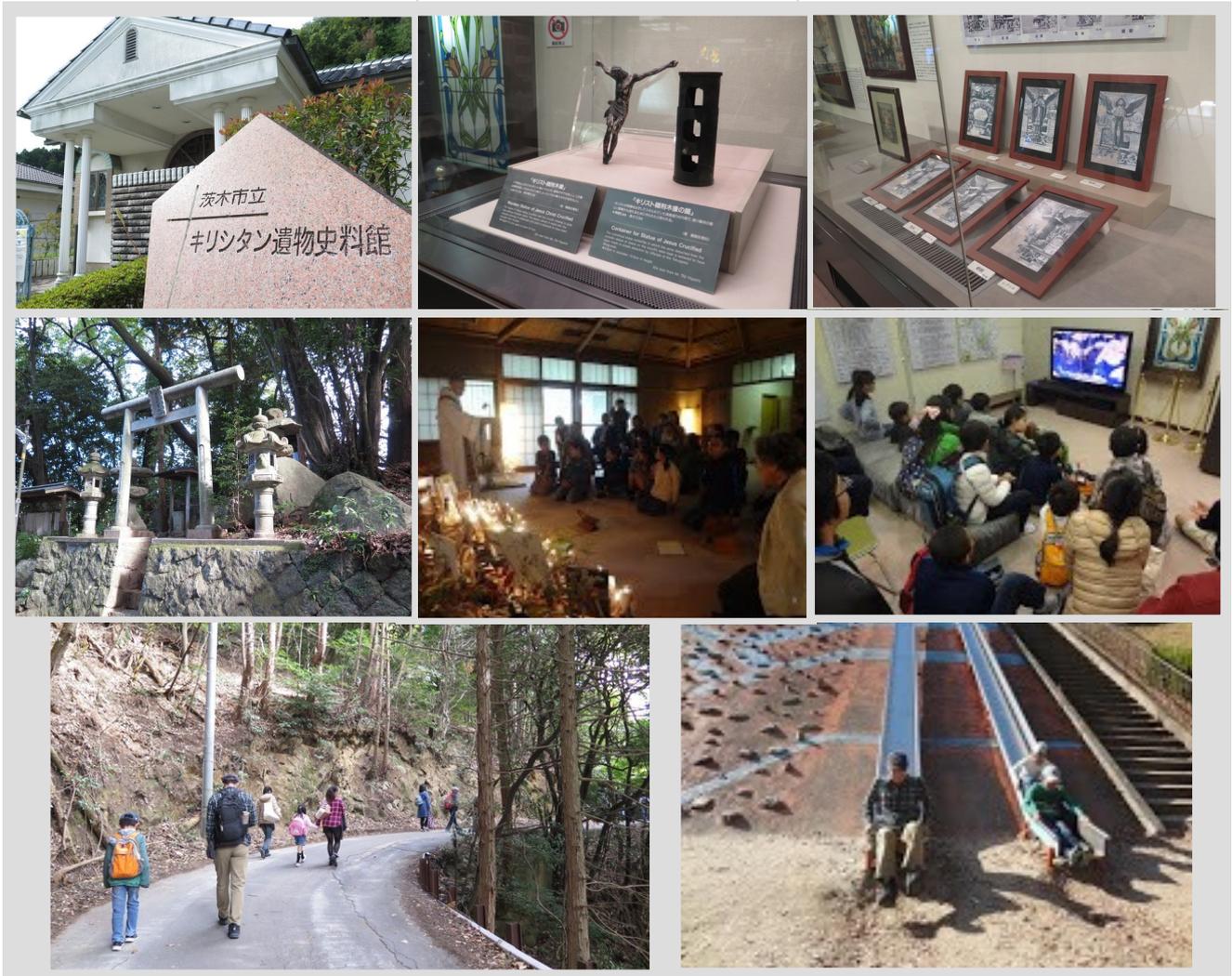
12月のガラスケースの言葉

あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、
いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。

マルコ 10の43、44

日曜学校 秋の遠足

10月31日



肌寒い日でしたが、秋晴れの土曜日に総勢31人で茨木市千提寺のキリタン遺物史料館と黙想の家「愛と光の家」に遠足に行きました。「こんな山奥に隠れなくてはいけないくらい危険やったんやね」と、男の子が思わずつぶやくくらい、駅から遠く離れたところにキリタンが隠れ住んだ千提寺があります。キリタン史料館では、迫害を逃れた人々が守り伝えてきた貴重な信仰の遺物、まさにこの地で発見され、社会の教科書にも載っている「聖フランシスコザビエル像(展示品は複製・本物は神戸市博物館所蔵)」をはじめ、十字架、ロザリオ、たくさんの展示物をしっかり観てきました。

次に黙想の家「愛と光の家」に行きました。ここで子どもたちに体験してほしいと思っていたのが「沈黙」です。日頃の楽しくにぎやかな教会生活とはすこし離れて、心と魂を静めて神様の声を聴く「沈黙の祈り」を愛と光の家のレジス神父様のご指導の下で行いました。「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」「あいしてます」などの短い言葉を祈りの導入として使い、沈黙のうちに祈りました。子供たちは身動き一つせず、諸聖人の祝日をお祝いするための100以上の聖人のご像、ご絵を飾った聖堂で神様と静かに語り合えたようです。

お祈りのあとに1階食堂で楽しくお弁当を食べ、子供たちは2キロ先の忍頂寺スポーツ公園に徒歩で向かい、長いすべり台などで思いっきりあそびました。すこし移動が長い遠足でしたが、子供たちは帰りのバス、電車でも元気いっぱいでした。楽しい一日を子供たちとともにいただきましたイエス様に感謝いたします。また遠足に行きましょうね。

(文 H.K.)

宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

■日帰り黙想会

12月17日(木) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

12月18日(金) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

■待降節黙想会

12月19日(土)17:00 ~ 20日(日)15:30 指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。



☎0797(84)3111

第40回

クリスマス チャリティコンサート

★出演★ 大阪ゲバントハウス合唱団

♪オラトリオ 聖パウロより F.Mendelssohn 作曲

♪クリスマスオラトリオより J.S.Bach 作曲 他

★賛助出演★ 池田ジュニア合唱団

♪Salve Regina J.Busto 作曲

♪The Lord bless you and keep you J.Rutter 作曲 他

日時

2015年12月6日(日)

14:00開演(13:30開場)

場所

カトリック池田教会 聖堂

編集後記

飼い葉桶のイエスを見るとき、皆が来れるように、と父が独り子をそこにまで降らせ、すべての人の救いを願って招かれていることを思います。共にいてその歩みを助けてくださるお方。絶えず導かれているという神への信頼があるので何の心配もなく進むことができます。困難に見えるようなことに遭遇しても、それを乗り越えるのに必要なものがいつも備えられ対応することができてきました。私の歩みが神から与えられたものなら、受ける御用も神が先頭に立って進めてくださるので私はその中で動かしてもらい喜びを貰っています。最近も、普段やっている仕事を通して願いが叶えられるようなことがありました。その内容が常に抱く思いを実現できるというものだったのです。行っていけることを喜んでいきます。行うと言いましても、突き詰めるとそれは願いが叶えられ、イエスにお会いする喜びに与らせていただいていることに他なりません。そういうことだと思えます。これからも聖霊のお働きの下に神の思いが与えられ、その喜びに与る人生を歩ませていただければ幸いです。

セシリア